

令和元年12月20日

プレスリリース

報道関係 各位



令和2年度の米粉用米の需要

令和元年度の米粉用米の需要について、日本米粉協会は3万6千トンと予測し、発表いたしました。現時点で、令和元年度の米粉用米の需要は3万5千トンとの見込値となり、事前に発表いたしました数値にはほぼ合致することが、確実となりました。

引き続き、当協会は令和2年度の米粉用米の需要予測を立案しましたが、その予測は3万9千トンと予測しております。

令和元年度における米粉商品の市場動向を概括いたしますと、まず大手販売系列ではイオン トップバリュにおけるPBとして新たに「おこめで作ったふんわりパン」がイオン多店舗展開による販売を開始しており、さらにケンタッキーフライドチキン(KFC)は、「低アレルゲンチキンセット」のセットメニューの中に「米粉パン」を採用しています。

また、大規模販売店舗や専門店などが、消費者ニーズのより一層の高まりを受け、グルテンフリーコーナーの新規設置あるいは、店頭でのより積極的な売り場拡大戦略を実施しており、飲食業界に目を転じますとホテル、レストラン、旅館、専門店などが“グルテンフリー食品”を標榜した各種調理・料理レシピや、米粉商品の販売に注力するなど、力強い市場を形成してきております。

このような米粉における市場の活発な動きが伸張するなかで、平成30年度から続いている米粉用米の供給が需要に追いつかないというアンバランスが令和元年度の現在でも続いており、令和2年度の当協会の需要予測を鑑みても、このまま需給バランスが改善されない状態では、その供給不足はさらに加速されることが予測され、憂慮すべき状況になっております。

米粉の需要が堅調に伸びるなか、日本米粉協会は供給の改善を切に望むものであります。